

01. エコキャップ回収・分別ボランティア

1 日程 2024年4月～2025年1月

2 場所 市ヶ谷キャンパス各校舎、ペットボトル回収場所（回収）外濠校舎5階短期会議室（分別）

3 概要

VSPが定例活動として、毎月行っているエコキャップ分別・回収ボランティアは、今年も多くの方が参加しました。学内で回収されるキャップは、回収可能なキャップとそうでないものに分ける分別活動を行い無料で引き取ってくださる業者さんにお渡しします。そのエコキャップはリサイクル素材の売却益より1kgにつき2円を、世界の子供たちにワクチンを（JCV）にワクチン購入代金へと寄付されます。キャップを回収する際、数量を記録し回収量の変化をグラフに記録しています。

4 学生参加者数 のべ151名

日程	参加者数	日程	参加者数
4月11日（木）（回収）	10名	10月8日（火）（回収）	14名
4月18日（木）（分別）	10名	10月18日（金）（分別）	5名
5月8日（水）（分別）	7名	11月13日（水）（回収）	6名
5月15日（水）（回収）	13名	11月13日（水）（分別）	5名
6月3日（月）（回収）	12名	12月9日（月）（分別）	7名
6月12日（水）（分別）	6名	12月9日（月）（回収）	16名
7月3日（水）（回収）	11名	1月20日（月）（回収）	13名
7月10日（水）（分別）	8名	1月20日（月）（分別）	8名



5 企画学生の感想

毎月2回行われている本活動ですが、私自身は毎回参加できていないものの、メンバーの皆さんを中心に、参加者の方々と協力しながら活動を継続することができました。今年度も多くの参加者の方々とエコキャップの回収・分別を行い、2024年12月に業者の方へ回収していただいた時点で107名分のワクチンに相当する214kgのエコキャップを業者の方にお届けすることができ、とても嬉しく思います。来年度以降も定例活動として継続し、学生の皆さんにボランティアをより身近に感じてもらうきっかけとなるよう、また楽しみながら参加できる時間となるよう、工夫を重ねて活動を続けていきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 小林 月琴

6 参加学生の感想

私がエコキャップボランティアに参加した理由は、キャップのリサイクルを促進するだけではなく、その売却益で発展途上国のワクチン支援ができることを知り、社会に貢献できると考えたからです。ボランティアをしている時には他の学生と交流する機会もあり、楽しく取り組むことができました。短時間の活動でしたが、非常に充実した時間でした。この活動を通じて、普段の生活の中で、小さなことでも社会に貢献できることがあるのではないかと考えるきっかけになりました。今後も様々なボランティア活動に参加していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科2年 早川 ころこ



キャップ回収の様子



交流しながらキャップ分別をする学生スタッフ

02. キャンパス周辺清掃ボランティア

1 日程 2024年4月～2025年1月（基本は毎月1回 昼休み）

2 場所 市ヶ谷キャンパス周辺（大学周辺、神楽坂、靖国神社周辺）

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ VSP 主催。毎月1回、日程や清掃場所を決め清掃をしています。時間は30分、60分両コースを設け、神楽坂や靖国神社周辺などキャンパスの周辺を知ることと目的とし、学生同士の交流という成果も得ることができました。今年度は学生スタッフ VSP のメンバーの提案で、ゴミ袋の代わりにコーヒー豆袋を採用するなどプラスチックごみの削減に向け取り組むことができました。

4 学生参加者数 のべ132名

日程	参加者数
4月23日（火）	21名
5月22日（水）	13名
6月19日（水）	19名
7月17日（水）	11名
10月22日（火）	26名
11月19日（火）	18名
12月17日（火）	16名
1月16日（木）	8名

5 企画学生の感想

今年度はたくさんの学生が参加してくださいました。運営するのは少し大変でしたが、参加者からは「楽しかった」「もっと清掃したかった」との声をたくさん聞いて、とても嬉しかったです。また、今年度から清掃で使うゴミ袋がコーヒー豆の袋に変わりました。まだ試行錯誤の状態ですが、プラスチックごみの削減に少しでも寄与できたのではないかと思います。来年度は今年度の反省を踏まえつつ、より多くの学生が楽しんで清掃できるよう努力していきたいです。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科 2年 大江 千歳

6 参加学生の感想

私はこの企画を通じて、普段気づくことのできないこの街の素晴らしさに気づくことができました。実際に地域清掃をしてみて、道に落ちているゴミの少なさにとても驚きました。これは、近隣住民の方や法政生を含めた市ヶ谷周辺の学生の素晴らしさだと思います。ポイ捨てをしないということのごく普通のことですが、普通のことであるということは素晴らしいことだと私は思います。今回の企画で体感できた街の素晴らしさを別の企画でも活かしていきたいです。こんな素晴らしい企画をありがとうございました。来年度もありましたら、ぜひ参加させていただきたいと思います。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部経営学科 1年 長谷川 将大

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催
地域清掃ボランティア
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい！」「気軽にできるボランティアがしたい！」という方にぴったりのボランティアです。

キャンパス周辺清掃
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル飲料をプレゼント！
4月23日（火）
 12：25～12：55
 12：25～13：25

九段・靖国地区清掃
 地域の町内会の方、千代田区の職員のみなさんと一緒に、地域/パトロールを兼ねた清掃活動を行います。（毎月20日前後）
4月18日（木）
 15：30～17：00

※参加ご希望の方は、Googleフォームまたはメールにてお申込ください。
 お申込・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター内）
 【電話】03-3264-9516 ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp
 【開室】月～金（祝日除く） 9：00～17：00



大学周辺道路を清掃する様子



交流しながらの清掃活動

03. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

1 日程 2024年4月～2025年3月（基本は毎月第3木曜日）

2 場所 九段さくら館→靖国通り周辺→市ヶ谷駅周辺→九段さくら館

3 概要

毎月第3木曜日に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。地域や警察署の方たちと話しをしながら清掃だけではなく、防災の意識や大学周辺の地理や成り立ちなども知ることができ、楽しく地域を知るボランティアとなっています。

4 学生参加者数 のべ38名

日程	参加者数
4月18日（木）	4名
5月16日（木）	2名
6月20日（木）	5名
10月17日（木）	2名
11月21日（木）	12名
12月19日（木）	3名
1月16日（木）	3名
3月13日（木）	7名

5 参加学生の感想

今回は、自治会の方や警察の方々と共に、九段下、靖国を回りました。最初に旗を掲げて写真を撮りました。そして、今年の1月17日に阪神淡路大震災から30年ということで、防災を啓発しながらゴミ拾いを班に分かれて行いました。途中、何気ない雑談をしながら行うゴミ拾いと、その後の歓談に心が和みました。ありがとうございました。
法学部法律学科4年 井出 洋輔

いつもの登下校でも大きな通りなどでは目立ったごみなどはないように感じていたが、清掃ボランティアを通して、小さな路地に入ったところでは、たくさんのタバコが捨てられていることに気づいた。普段目に留まらない場所でも、人々が過ごしやすい街にすることや間接的に治安の維持に貢献できているのではないかと感じる事ができた。学生同士で交流ができて楽しみながらできた。学年や学部学科が違う人同士で交流ができるので、新たな出会いや発見があるのではないと思う。大学の近くだが意外と行ったことのない場所などもあり、その点でも新しい発見があった。
法学部法律学科4年 山田 朋希



清掃活動に参加する学生



11月の清掃参加者の集合写真

04. 高円寺子ども食堂

1 日程 毎月第1、3土曜日 ※2025年3月は第1土曜日のみ開催

2 場所 高円寺子ども食堂

3 概要

杉並区にある「高円寺子ども食堂」は毎月第1・3土曜日に開かれており、毎回多くの子どもたちや保護者の方が訪れています。今年度も活動内容はフードパントリーのお手伝いを行いました。お菓子やレトルト食品などの袋詰めやお弁当の包装をして、子どもたちにお渡ししました。地域や他大学のボランティアの方とも交流が持てることもあり、今後も継続したい活動の一つとなっています。

4 学生参加者数 延べ24名

日程	参加者数	日程	参加者数	日程	参加者数	日程	参加者数
4月20日(土)	2名	7月6日(土)	1名	9月21日(土)	2名	1月18日(土)	1名
5月4日(土)	2名	7月20日(土)	2名	10月5日(土)	1名	2月1日(土)	1名
5月18日(土)	1名	8月3日(土)	1名	10月19日(土)	1名	2月15日(土)	1名
6月1日(土)	1名	8月24日(土)	1名	11月16日(土)	1名	3月1日(土)	1名
6月15日(土)	2名	9月7日(土)	1名	12月7日(土)	1名		

5 参加学生の感想

今回のボランティア体験で、支援の対象としている家族構成や年代の認識が少し変わりました。子ども食堂なので、今までは子どもがいる母子家庭や父子家庭、子どもが多い家庭を想像していました。しかし実際にボランティアに行ってみたところ、母親も父親もいる家庭、子どもと大人の人数比が偏っていない家庭も見受けられました。また、印象に残ったのが、こどもがいない家庭も対象になっていたことです。子ども食堂という場所で、大人にも支援をする必要がある状況から、日本の貧困問題も小さな問題ではないということを改めて再認識しました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部 人間環境学科 1年 清澤 夏輝

今回の活動では、「地域でのつながり」を感じることができた点で、この活動を大変有意義なものにすることができた。現代において、地域間はおろか、隣人との関係が一切ないということも少なくない。そんな中、この高円寺子ども食堂さんは、地域の方々やボランティアの女の子など、多様な年代の人々で、地域の人を助ける様子、またそれだけでなく、お互いに名前を覚え、世間話をする様子など、非常に和やかな場を感じることができた。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部 国際文化学科 中村 大



配布された食料



活動の様子

05. OluOlu 障がい児サッカー教室

- 1 日程 2024年4月～2025年3月
- 2 場所 大井町イトーヨーカドー屋上など
- 3 概要

毎月1～2回(天候などにより異なる)品川区の特定非営利活動法人OluOluの方々が運営を行っているCPサッカー・障がい児サッカー教室に参加しお手伝いさせていただいております。OluOluのCPサッカー・障がい児サッカー教室は、脳性まひ、もしくは手足に何らかの障がいがあり、独歩ができる小・中学生または、身体の障がいや、発達障害により運動が苦手な子どもたちがスポーツを楽しみ、心も体も笑顔になれる場を提供することを目的としています。私たちは、理学療法士や児童の発達に関する有識者であるコーチの方々と共に、学生ボランティアとして子どもたちが安全に活動できるようサポートし、子どもたちと一緒に楽しんでサッカーをしています。

4 学生参加者数 延べ23名

日程 (月1～2回実施)	参加者数 (延べ人数)	日程 (月1～2回実施)	参加者数 (延べ人数)
4月	2名	10月	1名
5月	2名	11月	2名
6月	2名	12月	1名
7月	4名	1月	0名
8月	3名	2月	1名
9月	1名	3月	4名

【OluOluについて】

HP:<https://www.oluolusports.org/>FB:<https://www.facebook.com/oluolulsports/>

5 参加学生の感想

今年度は、これまで数多くの活動に参加させて頂いた経験を踏まえ、限られた時間の中で何ができるのか、どのように接すれば良いのかなどを意識しながら参加させて頂きました。長年参加している子どもたちにはレベルの高い練習方法を提案し、新しく参加された子どもたちにはまず緊張を解きほぐし、楽しんでもらえるようサポートすることで、それぞれの能力ややる気に合わせた活動ができるようになりました。今後は、過去の特長を活かし、改善点を話し合いながら、より良い活動にしていきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 理工学部経営システム工学科2年 山本 樹輝
今年度からこの活動に参加させていただきました。月に2回という短い時間ではありますが、子どもたちと少しずつ関係を深めることができました。子どもたちは一人ひとり得意なことや苦手なことが異なるため、それぞれに合った教え方や褒め方を模索しながら取り組んできました。誰か一人だけでなく、子どもたち全員が楽しめるようなサポートを心掛けています。これからもこの活動に積極的に関わり、子どもたちの成長を見守りたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年 大橋 俊亮



大井町イトーヨーカ堂屋上にて



子どもたちとの活動の様子

06. バイタル・プロジェクト×VSP 子ども居場所企画

1 日程 2023年4月～2024年2月（毎週月曜日・全23回）

2 場所 吉まぐれ屋（荒川区）

3 概要

VSPでは2020年度から、NPO法人バイタル・プロジェクト協力のもと、子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。以前は、新型コロナウイルスの影響により、Zoomを用いた交流を主に行っていましたが、オンラインでの活動を中止し、実際に子ども食堂のある荒川区の吉まぐれ屋に赴き、対面での活動を行っています。毎週月曜日に子ども食堂にお弁当を取りに来る子どもたちとゲームや談話で交流し、現地で子どもの居場所づくりに取り組みました。7月、9月は「にっぽり世界うまいもの市」でポッチャ体験会を行いました。地域の様々な年代の方に楽しんでいただき、世代間を超えたいい経験になりました。今後は、この活動を継続していき、この経験を活かし新たな学習支援、子供支援や地域交流の場を提供できる場所作りに貢献していきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 堀下 紗歌

4 学生参加者数 延べ37名

5 企画学生の感想

本企画を通じて、多くの子どもたちやボランティアの方々と交流することができ、大変貴重な経験となりました。今年度は授業の関係で参加できない期間もありましたが、一つひとつの居場所の時間を大切にしながら、ボランティアとして活動させていただきました。また、今年度は子ども食堂の枠を超え、荒川区で毎月開催されている「にっぽり世界うまいもの市」にVSPとして2回ポッチャで参加させていただく機会があり、より多くの子どもたちと交流することができました。来年度以降も引き続き、居場所づくりの活動に積極的に参加したいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 小林 月琴



子ども食堂のお弁当



参加者にポッチャを体験してもらう様子

07. 投票式エコキャップ企画

1 日程 通年（2022年度より設置）

2 場所 外濠校舎、大内山校舎

3 概要

本企画は、ペットボトルのキャップを単に回収するのではなく、あるお題の2、3択に答える形でキャップを回収することで、学生の興味を引き付けより多くのキャップを回収することを目的に行っています。参加型の活動であるため、楽しみながらボランティア活動ができ、学生の環境問題への意識が高まります。回収箱であるエコキャップ投票箱を大内山校舎と外濠校舎に設置しました。今年度はVSPのSNSを活用してお題を募集し、それに基づきお題を設定しました。単純にお題を書くだけでなく、お題に関するイラストや写真を入れたり、書体を変えたりするなどお題を書く紙にも工夫をしました。そうすることで、視覚的に訴えることができ、大学に訪れる全ての人にエコキャップ回収を周知することができました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP デザイン工学部都市環境デザイン工学科2年 小林 幸弥

4 活動報告

→投票箱⑤は少なかったため、回収しませんでした。

◇2024年5月10日 回収実施、お題の変更

（変更前）

- 投票箱①結果：1位 ディズニー 派
2位 USJ 派
- 投票箱②結果：1位 月曜1限 派
2位 金曜6限 派
- 投票箱③結果：1位 WBC 派
2位 FIBA バasketボールワールドカップ
2023 派
3位 FIFA ワールドカップ 2022 派

（変更後）

- 投票箱①：洋楽 派 or J-POP 派 or K-POP 派
- 投票箱②：フォレストガーデン 派 or カフェテリアつどひ 派
- 投票箱③：過去にタイムスリップ 派 or 未来にタイムスリップ 派

◇2024年6月 定例活動と合同で新しい回収箱を作成。

◇2024年7月12日 大内山校舎に新しい回収箱を設置。

- 投票箱④：こしあん or つぶあん
- 投票箱⑤：レポート or 筆記テスト

◇2024年9月6日 回収実施

- 投票箱①：1位 J-POP 派
2位 K-POP 派
3位 洋楽 派
- 投票箱②：1位 カフェテリアつどひ 派
2位 フォレストガーデン 派
- 投票箱③：1位 未来にタイムスリップ 派
2位 過去にタイムスリップ 派
- 投票箱④：1位 つぶあん 派
2位 こしあん 派

◇2024年10月30日 回収実施

- 投票箱①：1位 J-POP 派
2位 K-POP 派
3位 洋楽 派
- 投票箱②：1位 カフェテリアつどひ 派
2位 フォレストガーデン 派
- 投票箱③：1位 過去にタイムスリップ 派
2位 未来にタイムスリップ 派
- 投票箱④：1位 つぶあん 派
2位 こしあん 派
- 投票箱⑤：1位 筆記テスト 派
2位 レポート 派

◇2024年12月9日 回収実施

- 投票箱①：1位 K-POP 派
2位 洋楽 派
3位 J-POP 派
- 投票箱②：1位 フォレストガーデン 派
2位 カフェテリアつどひ 派
- 投票箱③：1位 過去にタイムスリップ 派
2位 未来にタイムスリップ 派
- 投票箱④：1位 つぶあん 派
2位 こしあん 派
- 投票箱⑤：1位 レポート 派
2位 期末テスト 派

◇2025年1月20日 回収実施

- 投票箱①：1位 K-POP 派
2位 洋楽 派
3位 J-POP 派

- 投票箱②：1位 フォレストガーデン 派
2位 カフェテリアつどひ 派
- 投票箱③：1位 過去にタイムスリップ 派
2位 未来にタイムスリップ 派

- 投票箱④：1位 こしあん 派
2位 つぶあん 派
- 投票箱⑤：1位 レポート 派
2位 期末テスト 派

5 企画学生 9名

6 企画学生の感想

投票の形式でキャップを回収することで使い終えたキャップを分別する学生もそれを回収するVSPの学生も楽しくエコキャップの分別・回収をすることができました。今年度からは定例活動と投票式の活動が一体となって取り組むことになり、エコキャップの活動をより責任を持って取り組もうと改めて考える機会になりました。回収の際やこれからの活動の方針を話し合う際に定期的にメンバーと集まる機会があったため、エコキャップの活動を通して交流を深めることができました。来年度からはボックスにどれくらいのキャップが溜まっているか確認するため常に広い視野を持ち、より多くの人がエコキャップに関わる活動に参加していただけるように考えていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科 1年 大平 夏実



手作りで投票式回収箱を製作した企画者の皆さん



大内山校舎 1階に回収箱を設置しました

08. HU コラボグッズ作成企画

- 1 日程 2024年5月～2025年3月
- 2 販売場所 法政大学生協同組合、一口坂校舎1階法政オリジナルグッズショップ（ネットショップ）

3 概要

法政大学では、被災地の人たちへ向けた応援グッズを毎年制作しています。今年度もVSPとチーム・オレンジの合同でグッズのデザインを担当させていただきました。ミーティングを重ねた皆さんのアイデアを出し最終的に今回グッズ化する商品は、スマホストラップとブックカバーに決定しました。スマホストラップは法政大学を象徴するオレンジだけでなく普段使いしやすい水色やグリーン、グレーの4色展開となっています。ブックカバーも法政大学のキャラクター「えこびょん」が記載され、シンプルかつ可愛いデザインとなっていますのでぜひお買い求めいただきたいです。なお、売り上げの一部は被災地に寄付されます。

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営戦略学科1年 酒井 彩七

4 企画学生の感想

私たち企画者は法政大学のキャラクターである「えこびょん」が大好きなので、こうして「えこびょん」に携わる企画に参加することが出来てとても幸せでした。チーム・オレンジの皆さんと合同で商品開発できたこと、また職員さん、株式会社HU様のお力添えもあって実際に商品化することができ、大変貴重な経験が出来ました。一生懸命企画した商品なのでぜひたくさんの方々に手に取って頂きたいです。

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 児玉 彩寧



スマホストラップを手取る企画者の皆さん



完成したブックカバー

09. 2024 年度 東京メトロ飯田橋駅ボランティア年間活動報告

1 活動実績

通年 東京メトロ飯田橋駅構内での見守り活動、定例会
4月 2023 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会
5月 新入生交流会
6月 研修会
8月 交流会
10月 ボランティアセンター所属 3 団体合同交流会
12月 代表交代・交流会
3月 活動報告会

2 概要

東京メトロ飯田橋駅ボランティアは、東京メトロ飯田橋駅構内で駅利用者への道案内やお身体の不自由なお客様の介助などの見守り活動を行っています。増加する訪日外国人へのご案内も昨年度から増加し、見守り活動の需要の高まりを感じる 1 年間でした。お身体の不自由なお客様への対応は稀であるものの、研修会で皆が介助方法を学んでいます。今年度は、1 年生 10 名が新たに加わりました。一昨年度始まったシフト制を継続し、新しいメンバーも様々なメンバーと一緒に活動できる環境を整えました。加えて、他のサークル・ボランティア活動と両立しているメンバーが多いため、無理せず楽しみながら活動できる環境の構築を意識しました。結果、1 年生全員が継続的に見守り活動を行っています。一方で、シフトを組んでもメンバー同士連絡を取り合わず活動しないという課題もあります。シフト制のメリットデメリットを考えながら、よりよい形で見守り活動ができるよう、改善していきます。昨年度の反省を生かし、今年度はメンバー間での交流の機会を増やしました。小規模な交流会を何度もすることで、密なコミュニケーションを取ることができました。交流会の中で、活動状況や今後の活動のアイデアを話し合うことができ、モチベーションが向上したと考えられます。一方で、全員が集まる機会は設けられず、交流会の参加者も固定化の傾向があるため、開催方法・開催時期などを再考したいと思います。来年度は、代表・副代表主導の下、より多くのメンバーが活躍できる機会をつくりたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 3 年 前田 すみれ

3 参加学生の感想

私は、東京メトロ飯田橋駅の困っている利用者の方の力になりたいという思いで、今年 1 年活動してきました。初めてのボランティア活動で少し不安な気持ちもありましたが、先輩方のサポートにより、少しずつ案内が出来るようになりました。まだ 1 人でスムーズに案内することは難しいですが、活動を重ねていくことによって成長を実感しています。今後もメトロボランティアに関わる全ての方々を借りながら、少しでも気持ちよく利用できるような飯田橋駅を作る活動の力になれるよう頑張ります。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア 文学部英文学科 1 年 土居 紗弥香

私は昨年度に引き続き、東京メトロボランティアの活動を致しました。活動を初めて 2 年が経とうとしている最近、飯田橋駅周辺への知識が深まり、加えて声のかけ方やより分かりやすい案内の仕方が分かるようになりました。今年度、私たちの活動は「より良い」を目指せるという魅力があることに気が付きました。私たちの活動は東京メトロ様やボランティアセンターの皆さんをはじめとする、様々な方々のご協力と支えによって成り立っています。その事を常に心に留めながら、「より良い」を目指して活動していきます。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティアデザイン 工学部都市環境デザイン工学科 2 年 小森 陽

私が今年 1 年の活動で成長できたと感じることは、メンバーと協力しながらご案内できたことです。この活動を始めて 3 年目になりますが、未だに知らない場所を聞かれることが沢山あります。その際も焦らず落ち着いて、一緒に活動しているメンバーと協力しながら、ご案内することができました。お客様から感謝の言葉をいただくともっと頑張ろうという気持ちになります。来年度は最高学年になりますが、運営を担ってくれる後輩のサポートができるよう努めたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅 ボランティアキャリアデザイン部キャリアデザイン学科 3 年 大内 優奈



合同説明会で活動について説明をする学生



飯田橋駅で研修をする様子



3団体合同交流会での集合写真



3団体合同交流会での集合写真

10. 2024 年度ボランティア・KYOPRO 合同説明会

- 1 日程 2024年4月13日(土)
2 場所 大内山校舎8階Y 801～Y 805 教室

3 概要

ボランティアや企画運営に興味がある新入生に向けて、ボランティアセンター・KYOPRO 説明会を実施した。チーム・オレンジ、VSP、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、KYOPRO の4 団体が説明会に参加した。説明会は2 部構成になっており、第1 部は、説明会方式で運営を行った。ボランティアセンター職員の小原さん、学生センター職員の鎌田さんにご挨拶をいただいた。その後各団体、10 分ずつ、パワーポイントを用いた説明を行った。こうして第1 部は1 時間程度で終了した。10 分間の休憩時間を挟み、ここからは第2 部として各団体が各教室に散らばり、新入生との交流を行った。Y801 に東京メトロ飯田橋駅ボランティア、Y802 にVSP、Y803 にKYOPRO、Y804 にチーム・オレンジにそれぞれブースを作り、東京メトロ飯田橋駅ボランティアは雑談と活動紹介、VSP は企画立案体験とエコキャップ分別体験、KYOPRO は企画立案体験、チーム・オレンジは非常食を食べながら団体の紹介を行った。こちらも1 時間程度で終了した。合わせて2 時間程度の説明会となり、新入生にとって有意義かつ、4 団体がお互いの活動を再確認しあう良い機会にもなった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 山本 真聖

4 参加学生数 148名

5 企画学生の感想

今回の説明会は、それぞれの団体がよりよい発表をするために、スライドなどを工夫し最後まで修正を続けていました。その努力によって、どの団体もリハーサルからブラッシュアップされた発表を行うことが出来ており、説明会に参加してくれた大勢の学生に各団体の魅力を伝えることが出来たと思います。また、チーム・オレンジのブースでは、非常食を食べてもらいながら、リラックスした雰囲気の中で団体の説明を聞いてもらうことが出来ました。新入生の方から積極的に質問をしてくれる場面もあり、多くの学生がボランティア活動に興味を持ってくれていることに感銘を受けました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部哲学科3年 大津 夏帆

説明会では、参加者にVSPの特徴や他団体との違いを詳しく紹介しました。実際にペットボトルキャップの回収BOXを持って来るなど、参加者の関心を引くように心がけました。リハーサルの時に気が付いた点を皆で共有しながら資料や内容がより良いものになるように当日まで努力を重ねました。字の大きさや写真の量、デザインが特に悩みました。結果的にとても満足いくものができました。後半の団体ごとのスペースではペットボトルキャップ分別と企画立案のブースを行いました。ペットボトルキャップ分別のブースでは3～5人1グループになり、分別しながら団体の良さを伝えました。手元で何かしているからこそ緊張がほぐれ楽しく話をする事ができました。またボランティアを身近に感じてもらうきっかけになりました。企画立案のブースでは、5人1グループになり興味のあるテーマやワードを出し合っており、実際に企画を考え出す活動を行いました。皆さん積極的に意見を出してくださり、ユニークな案をいくつも生み出す事ができました。ぜひ沢山の方にVSPに加入して頂けたら幸いです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 経営学部経営学科3年 伊藤 朝香

新入生が説明会に参加していて、多くの人がボランティアに興味を持っていることが嬉しく思いました。前半の説明会では、担当者から魅力あるメトロボランティアの説明があったので、後半の各団体の説明の時間帯には、多くの人がメトロボランティアのブースに来ていただきました。今年度から2年生中心で活動していくことが増えていくと思うので、自分たちが積極的に1年生の手本となるように頑張っていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ東京メトロ飯田橋駅ボランティア 法学部法律学科2年 八木 柗伍

説明会当日は教室が満員になるほどの新入生の参加があり、前半の団体紹介や後半の活動体験では意欲的に話を聞いてくれました。前半の

ボランティアや学部生向け正課外プログラムの企画に興味がある方必見！ /



参加団体



—概要—
法政大学 学生センター所属の4つの学生団体に関する説明会です！説明会では、それぞれの団体の活動や雰囲気わかる団体説明とミニ企画を行う予定です。皆さんの参加をお待ちしています！

申込方法：GoogleFoam

お申し込みはQRコードまたはQRコードから



お問い合わせ

市ヶ谷ボランティアセンター (外濠校舎1階学生センター)
TEL : 03-3264-9561
MAIL : ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp

団体紹介については、KYOPRO の活動を説明するのは難しく、どうすれば分かりやすいパワポを作れるか何度も試行錯誤し、時間をかけて準備をしました。そのおかげで、新入生の皆さんに KYOPRO の魅力をたくさん知ってもらえる発表にできたのではないかと思います。後半の活動体験では、たくさんの新入生の参加があり、活気あふれる有意義な時間にする事が出来たと思います。1年生の皆さんに KYOPRO の面白さをたくさん知ってもらったこの説明会を通して、今後も学生の学びにつながる面白い企画をたくさん作っていきたいと思いました。

課外教養プログラムプロジェクトスタッフ 文学部哲学科3年 中川 月海



全大会の様子



多くの新入生が参加しました



チーム・オレンジからの説明



VSP からの説明

11. 市ヶ谷キャンパスツアー 2024

1 日程 2024年4月15日(月)

2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPでは、新入生を対象としてキャンパスツアーを企画しました。本企画では新入生がこれからの市ヶ谷キャンパスでの学生生活を快適に過ごせることを目的とし、同じ学生の視点からキャンパス内の各施設の情報を紹介しました。市ヶ谷キャンパスの5つの校舎に加え、図書館や体育館などの施設を巡り、施設の概要のみならず、知っておくと為になる豆知識や法政大学のイベント時のことに絡めて紹介しました。ツアーでは約2時間かけてゆったりまわることができました。新入生は校舎を紹介するたびに質問をしてくれたり、写真を撮っていたりしていて、興味津々の様子でした。また、新入生の学校生活のことや大学生の生活についての相談を聞くなど、想定以上にコミュニケーションが取れる結果となりました。新入生同士もお互いに初対面の人が多かったにも関わらず、ツアー中は会話がはずんでいるようでした。このツアーで、学校を知ることだけではなく、新たに交友関係を広げるきっかけをつくったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 文学部日本文学科2年 大江 千歳

4 学生参加者数 10名

5 企画学生の感想

今回のキャンパスツアーは、準備から結果まで充実した時間を作ることができたと言える。まずツアーの内容を打ち合わせ、リハーサルをすることで、3年の自分でも知らなかった施設がいくつかあって、準備時間から楽しむことができた。また、自分が新入生の時に知りたかったことやお勧めしたいスポットに関して、先輩として伝えたこと、その内容に1年生が関心を持ってくれたことにやりがいを感じられた。さらに、途中から新入生同士や職員の方と話を楽しみながら進む様子が見られて、新しい交流の機会にできたという点からも、充実した時間にできたと思う。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科3年 小林 和夏

6 学生の感想

学校に入ったばかりの頃は、施設のことがよくわからず、戸惑うこともあるかもしれません。でも、ボランティアの先輩が進んで学校を案内してくれるというのは、とても貴重で有意義なイベントでした。ボランティアセンター学生スタッフの方の案内を通して、私はより速く学校の様々な施設を熟知することができて、キャンパスのレイアウトと特色を理解しました。これは私達に関心と支持を感じさせるだけでなく、私の未来の学習と生活のためにしっかりした基礎を築きます。その過程で、先輩たちと話をしたり、質問をしたり、その経験から学ぶことができます。このような活動は、新しい環境に溶け込むだけでなく、学校内の連携や協力を構築することができますが、キャンパスの雰囲気との調和と団結を促進すると思いました。

文学部哲学科1年 張 棟程



図書館前での説明



ミュージアム・サテライト (BT) 26F からの景色を楽しむ参加者

12. 春のボランティア・KYOPRO WEEK

1 日程 2024年4月15日(月)～19日(金)

2 場所 外濠校舎3階ギャラリー

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフの「VSP」、「チーム・オレンジ」、「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」及び課外教養プログラムスタッフ「KYOPRO」が合同で4月15日(月)～19日(金)までギャラリーを使い「春のボランティア・KYOPRO WEEK(以下春ボラ)」を実施しました。

春ボラでは5日間、各団体の紹介のパネル展示と個別相談会(昼休み)を実施し、ボランティアや課外教養プログラムに興味のある学生が足を止めてパネル展示を興味深く読んだり学生スタッフから話を聞いたりしていました。この春ボラは主に活動学生スタッフの活動を学内に周知、企画に参加してもらう目的で行われていますが、展示を見て実際に団体に入会した学生もいるなど、スタッフの勧誘にも良い機会となりました。市ヶ谷ボランティアセンターでは、引き続き多くの学生にボランティアセンターの存在を知ってもらい、大学のボランティアの機運醸成に繋がる活動を行っていきます。

4 学生参加者数 20名(主に展示の企画のため学生スタッフのみ集計)



掲示風景



掲示物を見る学生

13. 災害時避難での障がい者・高齢者疑似体験

1 日程 2024年4月18日(木)

2 場所 市ヶ谷総合体育館3階

3 概要

2024年4月18日、市ヶ谷総合体育館で「災害時避難での障がい者・高齢者疑似体験」が行われた。高齢者の体験として、麹町消防署協力の上、高齢者疑似体験セットを使用した。白内障や、体に制限を加えることで、高齢者が災害発生時に避難で困ることや、日常生活での困難なことを体験した。その後は2班に分かれて活動を行った。1つ目の班では麹町警察署協力の上、担架体験を行った。毛布やブルーシートなど身近なものが人を助けるのに役立つという知識を実践で学ぶことができた。2つ目の班では、学生が講師となり、車椅子試験を行った。普段乗らない車椅子を体験することで、車椅子を使用する方の視点を体験することができた。今回は法政大学だけでなく、他大学、高校生を招いての企画だった。障がい者・高齢者という、普段持つことのできない目線での体験を行った。災害による「逃げ遅れた」をなくし、どんな世代、どんな人でも取り残さない防災について考えることのできるものであった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
文学部地理学科2年 小林 真聖

4 学生参加者数 47名(法政大学22名、共立女子大学7名、三輪田学園高等学校18名)

5 参加学生の感想

障がい者、高齢者体験、車椅子体験・担架体験など普段できない体験をすることができ貴重な機会となった。自分はまだ20歳ということもあり、そこまで筋力などは衰えていないと思われるが、高齢者のように筋力が衰えている状態で、本日行ったような状態(腰が曲がっている、視野が狭い、耳があまり聞こえない、関節があまり曲がらないなど)になってしまうと、さらに身体に負荷がかかり、「歩く」という行為だけでも高齢者は私たちが体験した以上に大変であることがわかる。また、本日は担架体験を行ったが、災害時に人を運ばなければならぬ場合、自分が率先して本日行ったことを実践していきたいと思った。

法学部政治学科3年 石川 大樹

高齢者体験では、あの格好のまま避難したり、避難所へ向かったりするのには苦勞を要すると思った。また、ドキュメンタリーでお年寄りだけを残して逃げるといった場面があるけれど、この体験をして、つらいことだと身を持って感じた。車いす体験では、体験なので、楽しいと感じましたが、日常で車椅子に乗って移動するということは階段が登れない等の行動に制限がかかるので、不自由だと思った。高齢者や、障がい者たちが日々、大変な思いをしていたら助けられる人になりたい。

キャリアデザイン学部2年 阿部 礼佳



高齢者の不自由さを体験する学生



ビニールシートを使い6人で搬送する様子

14. 防災公園へ行こう！

1 日程 2024年4月20日(土)

2 場所 東京臨海広域防災公園

3 概要

4月20日(土)に、有明にある東京臨海防災公園に伺った。目的としては、新入生を交えた防災学習である。今回の学習は大きく3部分に分かれていた。第1部として、東京直下72h TOURを行った。スタッフの誘導のもと、実際に被災してから避難所に避難するまでを、タブレットで防災に関するクイズに答えながら体験した。途中には実際に首都直下地震が起きてしまったことを想定した町が再現されており、体を使って災害の深刻さを実感することができた。第2部では、実際に東日本大震災の揺れを再現している起震車を外からみたり、首都直下地震が起きてしまったことを想定したアニメーションを視聴した。第3部では防災の知識が展示されている場所を自由見学し、合計90分程度で企画を終了した。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 山本 真聖

4 学生参加人数 19名(内新入生13名)

5 参加学生の感想

展示室では、たくさんの防災の知識を得ることができた。特に避難場所を家族で決めておかなければならないという展示は非常に大切であると感じた。実際に展示にあったように、別々の場所で被災したときの集合場所や連絡手段を共有しておこうと思った。また、LINEを使うようになってから、家族の連絡先を持ち歩くことがなくなったため、いざという時のために持ち歩こうと考えた。全体的に有意義なイベントであった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部英文学科 荒毛 駿太



タブレットを利用し防災に関するクイズに答える学生



参加者全員で記念撮影

15. 春の献血企画

1 日程 2024年5月16日(木) 17日(金) 20日(月)

2 場所 富士見坂庭園

3 概要

令和6年5月16、17、20日に、日本赤十字社の方々と献血企画を実施いたしました。春の賑わいのあるキャンパスの中、天候にも恵まれ、たくさんの方々にご来場いただきました。今回は合計で193名の方々が献血にご協力くださいました。みなさまのご協力ありがとうございました。近年、少子化に加え、高校や大学で行われる学内献血の減少により、若者の協力者数の減少が課題となっています。今回参加してくださった学生からも、「学内に来てくれたからできた」「ハードルが高くてよかった」等の声をいただいています。このように、学内献血は若者が献血をするきっかけになると感じています。今後も積極的に献血企画を行って参りますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 大江 千歳

4 学生参加者数 193人(内献血者数153人、40名は献血できず)

5 企画学生の感想

春の献血に際して、私は学内で献血の呼びかけを行いました。このような呼びかけに反応して下さる方は多いとは言えず、やはり気分の沈むこともありました。しかし、そもそも献血はあくまでボランティアであり、決して強制されるものではありません。今回献血にご協力下さった193名の方々の優しさを深く感じる事が出来たのは、この活動を行ったからこそだと思います。ボランティア活動は他の人の支援が出来るだけでなく、大事な何かに気づく機会にもなると感じられました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 国際文化学部国際文化学科1年 中村 大

6 参加学生の感想

何をやるのか全く知らない状態で入りましたが、丁寧な説明のお陰で難なく献血ができました。アフターケアも充実していて、脱水症状を気にしていましたが水分を補充しやすい環境で助かりました。

協力している人にA型が多いことも知りましたが、いずれにせよ血液自体は不足しているはずなので、協力ができて良かったです。

大学内で行われているため、空きコマを活用して献血に貢献することができ、とても嬉しく思います。スタッフさんも優しく、気持ちよく献血に参加することができました。また機会があれば献血したいので、ぜひ大学内で企画していただきたいです。



献血の呼びかけをする VSP 学生スタッフ



献血の受付をする学生



オリジナルゲーム「BING（防災アイテム並び替えゲーム）」を紹介するチーム・オレンジ学生スタッフ



VSP のポッチャ体験の様子



神保町応援ゆるキャラじんぼうチョウ



集合写真